

新緑の富士山展望ハイク

西 正子

最近、圏央道が、中央、そして東名まで延び、我が家から日帰り圏の山がぐっと増えてきた。山スキーが終わり、沢にはまだ早いこの季節、富士山展望の山歩きを楽しんだ。ご一緒してくださったのは白井さんだ。

●三方分山 1422m (2016.4/23)

精進湖バス停→女坂峠→三方分山→パノラマ台→パノラマ台下バス停（歩行：4時間 35分）

山の春は遅い。湖畔では桜や桃が満開だが、見上げる山肌は新緑がちらほら。うっすら萌黄色がかっている。

女坂峠までは、駿河と甲斐を結んだ中道古道跡を利用した登山道を登る。立派な神社や杉の巨木、かつての宿場などが左右に並び、風情を感じる。

道は手入れが行き届き、ガレ場にはロープが張られている。ブナの木が目立つようになると、三方分山の山頂についた。北東方向からの富士山の眺めは、手前に小さな大室山が控え、文字通り「子抱き富士」そのものだった。

その先のパノラマ台は、文字どおりのパノラマ台で、御坂や富士の眺めはもちろん、眼下に、本栖湖、精進湖、西湖、河口湖の4つの湖面が青く、うるおいのある景色をつくりだしていた。

●長者ヶ岳 1336m／天子ヶ岳 1330m

(2016.4/29)

田貫湖休暇村→長者ヶ岳→天子ヶ岳→白糸ノ滝→田貫湖休暇村（歩行：6時間 35分）

まず驚いたのは、田貫湖のキャンプ場だ。たくさんさんのテントが所狭しと立ち並び、駐車場から車が見えている。さすがゴールデンウィーク！

田貫湖を見下ろすように登山道をジグザグに登る。ツツジのピンク色を楽しみながら高度を上げると長者ヶ岳の山頂に着いた。寒気の影響で富士山の眺めはイマイチだが、西側には雪の稜線が

遠くに見える。南アルプスだろうか。

緩い登り下り 1 時間で天子ヶ岳の山頂に出る。ナヤマミズナラが立ち並び明るい広場状の地形で、テントを張ったら、楽しく充実した一夜が送れると思う。

下りにかかると、雲が取れ、すばらしい富士山が姿を現した。西側からの姿は、中央に走る大沢崩れが特徴だ。山頂部が丸みを帯びて見えるせいか、やや鈍重になりがちな印象を、一刀で断ち割ったかのような大沢崩れの荒々しいV字谷が引き締めている。すばらしい姿だった。

●毛無山 1500m／十二ヶ岳 1683m

(2016.4/30)

毛無山登山口→毛無山→十二ヶ岳→西湖民宿街→毛無山登山口（歩行：6時間）

最終回は、山域きってのスリリングなコースを選んだ。登山口からは稜線にむかって、一直線に道が伸びている。あたりは、松やヒノキの林がつづくが、進行方向、山頂だけは笹とカヤトが覆い、樹木が見られない。なるほど「毛無山」だ。

北側から見る富士山は、私たちのイメージする富士山に一番近いように思われる。山頂の形、左右の裾野の広がり、雪つきもよく、スマートだ。

十二ヶ岳までは、一ヶ岳、二ヶ岳・・・と小ピークをいくつも踏み越える。ハイライトは十一ヶ岳と十二ヶ岳間のキレット通過にある。50mほどの岩場をロープを頼りに下り、ゆらゆらと不安定な吊橋を使ってキレットを越え、すぐにまた急峻な岩場を登っていく。

そうして、やっとたどり着いた十二ヶ岳の山頂は、これまた難関山にふさわしい、狭く、切れ落ちた頂上だったのには、ただ笑ってしまった。

この日、富士山は朝から一度も顔を隠すことがなかった。3回の山旅を締めくくるにふさわしい眺めが終日つづいた。再訪は秋だろうか。